

サイボウズ Office 10 バージョン 10.4 インストール

商標について

記載された商品名、各製品名は各社の登録商標または商標です。また、当社製品には他社の著作物が含まれていることがあります。

個別の商標・著作物に関する注記については、弊社の Web サイトを参照してください。

http://cybozu.co.jp/company/copyright/other_companies_trademark.html

なお、本文および図表中では、(TM)マーク、(R)マークは明記していません。

目次

インストール	4
Windowsの場合	5
Linuxの場合	11
インストールで使う用語	16
インストール識別子とは	16
CGIディレクトリとは	16
インストールディレクトリとは	16
ドキュメントルートディレクトリとは	16
データディレクトリとは	16
Webサーバーの実行ユーザーとは (Linux環境のみ)	17
インストール時に困ったときは	18
インストール先のディレクトリを変更したい (Windows環境のみ)	18
アクセス画面が表示されない	18
サーバーの移行 (移行元がOffice 10の場合)	20
ドライブの移行 (移行元がOffice 10の場合)	23

インストール

Office 10を新規にインストールする手順を説明します。

Windowsの場合

次の場合を例にOffice 10をWindows環境にインストールする手順を説明します。

- Windows環境: Windows Server 2012 Standard
- インストール識別子: cbag

1. インストールする環境を確認します。

項目	説明
ユーザーの権限	インストールする際に、次のユーザーでサーバーマシンにログインする必要があります。 • Administrator権限を持つユーザー
サーバーマシンやネットワークの環境	お使いのサーバーマシンやネットワーク環境が動作環境と合っていることを確認します。 製品サイト: 動作環境
サーバーマシンの設定日時	サーバーマシンの設定日時が、正しいかどうかを確認します。 日時が正しく設定されていないと、正常に動作しない恐れがあります。
ドライブの空き容量	インストール先のドライブに、100MBの空き容量があることを確認します。
常駐アプリケーションやプロセス	サーバーマシンで、アプリケーションのプロセスが終了していることを確認します。 セキュリティやバックアップなどの常駐アプリケーションやプロセスが動いていると、影響を受けてしまう可能性があるため、停止した状態で実施することを推奨しています。

2. Office 10の対応Webサーバーがインストールされていることを確認します。

Webサーバーがインストールされていない場合は、Office 10のインストールと同時にApacheをインストールできます。

■ Windows環境のOffice 10対応Webサーバー

Windows環境で、Office 10が対応しているWebサーバーは次のとおりです。

対応Webサーバー	バージョン	Webサーバーのインストール方法
インターネットインフォメーションサービス(IIS)	7.0	技術情報: IIS 7.0のインストール
	7.5	技術情報: IIS 7.5のインストール
	8.0	技術情報: IIS 8.0のインストール
	8.5	技術情報: IIS 8.5のインストール
Apache	2.2.x	技術情報: Apache(Windows用)のインストール

3. 最新のインストーラーを入手します。

[製品サイト: ダウンロード](#)

4. サーバーマシンにダウンロードしたインストーラー「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」をダブルクリックし、インストーラーを起動します。

次のサーバーマシンをお使いの場合は、「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」を右クリックし、[管理者として実行]をクリックします。

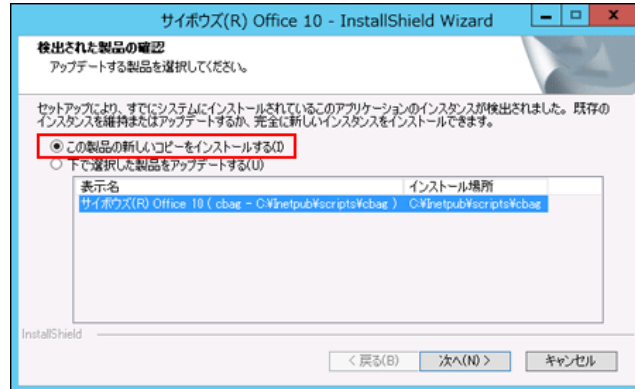
- Windows Server 2008
- Windows Server 2012
- Windows Vista

- Windows 7
- Windows 8

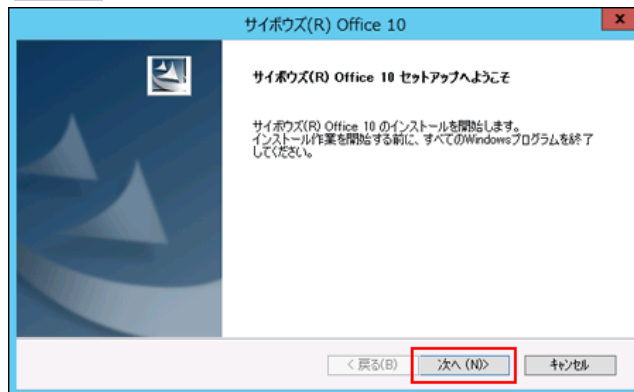
- 同じサーバーマシンにOffice製品がすでにインストールされている場合

1つのサーバーに、複数のOffice製品をインストールする場合は、「この製品の新しいコピーをインストールする」を選択し、**次へ** をクリックします。

あとの手順8で、既存のOffice製品と異なるインストール識別子を設定してください。



5. **次へ** をクリックします。



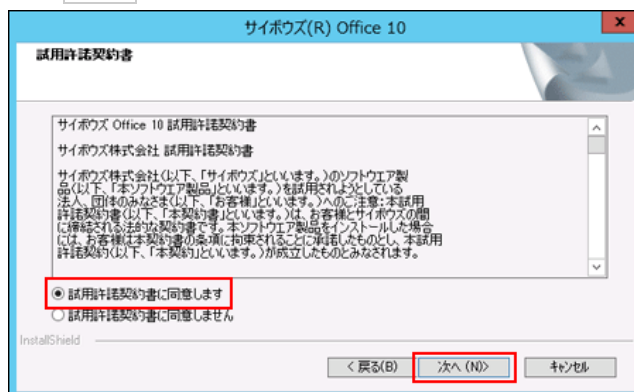
6. 試用許諾契約書を確認し、同意する場合は「試用許諾契約書に同意します」を選択し、**次へ** をクリックします。

- 試用許諾契約書に同意しない場合：

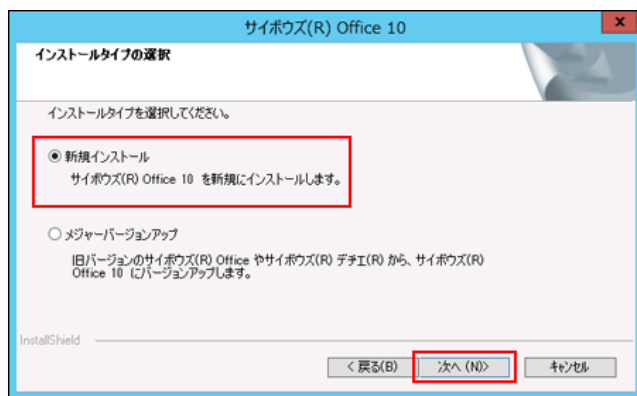
キャンセル をクリックし、インストールを中止します。

- 1つ前の手順に戻る場合：

戻る をクリックします。



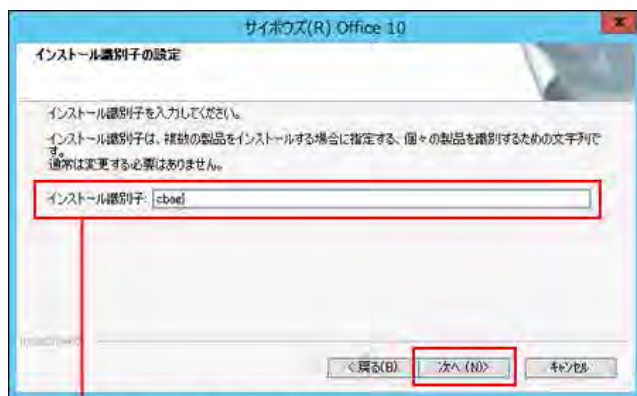
7. 「新規インストール」を選択し、**次へ** をクリックします。



8. インストール識別子を確認し、次へをクリックします。

通常はインストール識別子を変更する必要はありません。ただし、1つのサーバーマシンに複数のOffice製品をインストールする場合は、既存のOffice製品と異なるインストール識別子を設定する必要があります。

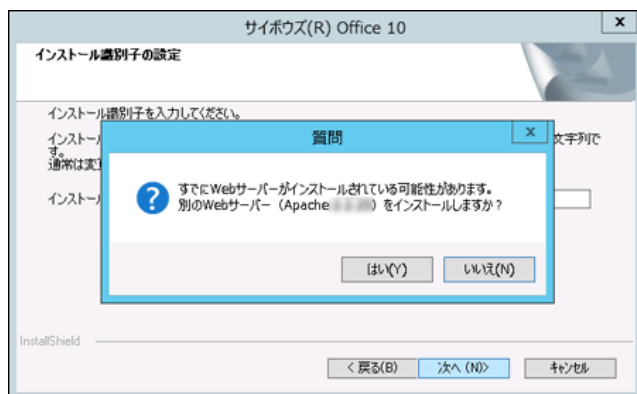
□ インストール識別子とは



変更する場合は、任意の文字列を入力します。

次のいずれかに該当する場合に、Webサーバー(Apache)をあわせてインストールするかどうかを確認する画面が表示されます。

- サーバマシンにWebサーバーがインストールされていない。
- すでにインストールされているWebサーバーを停止している。
- Webサーバーのポート番号が80番から変更されている。



- WebサーバーにApacheを利用する場合：

はい をクリックし、画面にしたがってApacheをインストールします。

□ 技術情報：[Apache\(Windows用\)のインストール](#)

- Apache以外のWebサーバーを利用する場合：

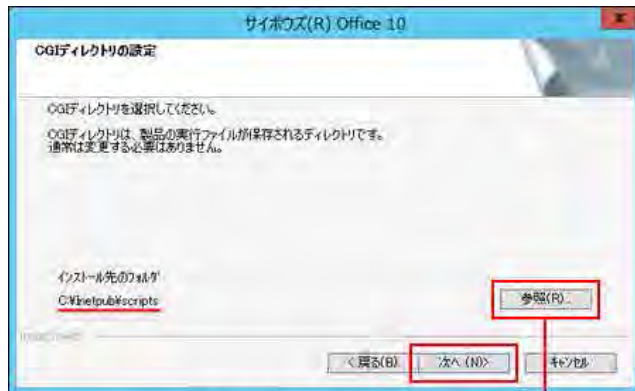
いいえ をクリックし、インストールをキャンセルします。先に Webサーバーを準備してから、Office 10をインストールしてください。

9. CGIディレクトリを確認し、**次へ** をクリックします。

通常は CGIディレクトリを変更する必要はありません。変更する場合は、**参照** をクリックし、CGIディレクトリを指定します。

初期値に設定されているCGIディレクトリは、お使いのWebサーバーにより異なります。

☐ [CGIディレクトリとは](#)



CGIディレクトリを変更する場合にクリックします。

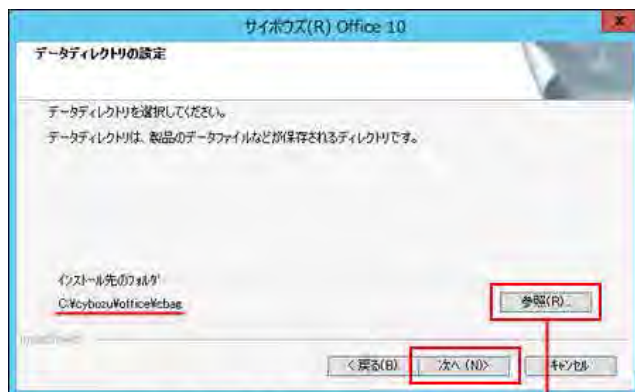
10. データディレクトリを確認し、**次へ** をクリックします。

通常はデータディレクトリを変更する必要はありません。変更する場合は **参照** をクリックし、データディレクトリを指定します。

データディレクトリの初期値は、次のとおりです。

- C:\cybozu\office¥(インストール識別子)

☐ [データディレクトリとは](#)



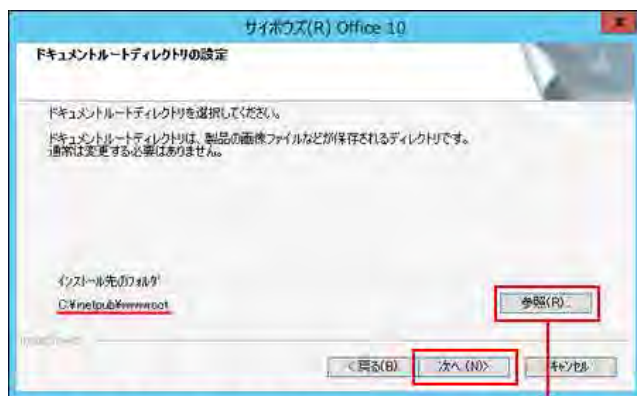
データディレクトリを変更する場合にクリックします。

11. ドキュメントルートディレクトリを確認し、**次へ** をクリックします。

通常はドキュメントルートディレクトリを変更する必要はありません。変更する場合は **参照** をクリックし、ドキュメントルートディレクトリを指定します。

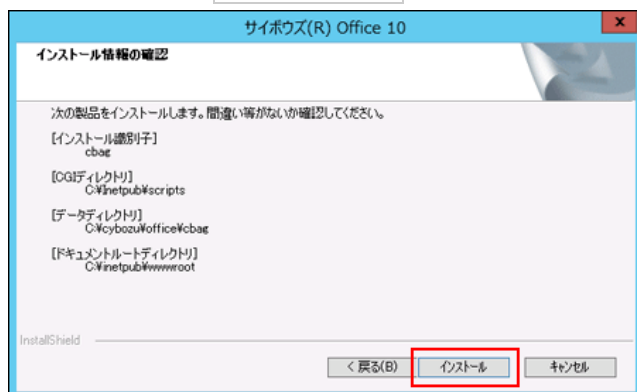
初期値に設定されているドキュメントルートディレクトリは、お使いのWebサーバーにより異なります。

☐ [ドキュメントルートディレクトリとは](#)

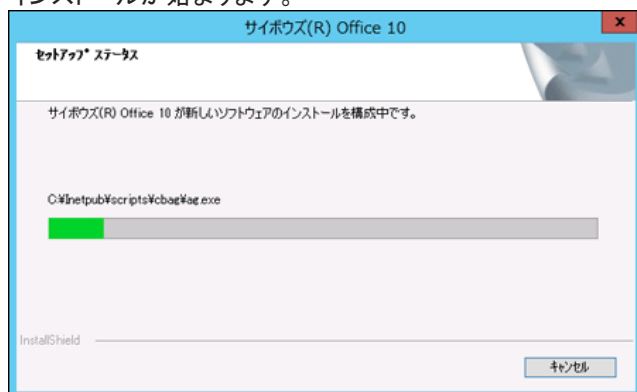


ドキュメントルートディレクトリを変更する場合にクリックします。

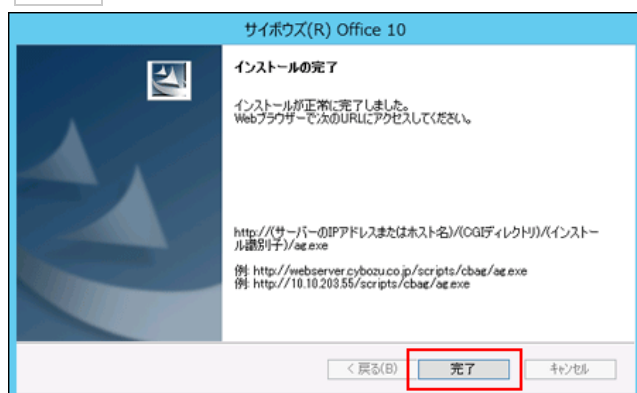
12. 設定を確認し、インストール をクリックします。



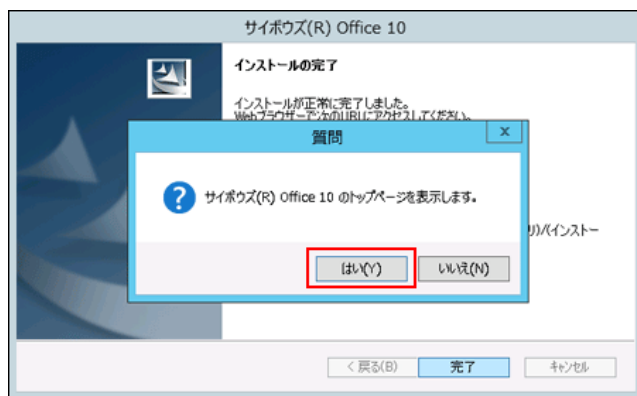
インストールが始まります。



13. 完了 をクリックします。



14. はい をクリックします。



Office 10のログイン画面とREADME.txtが表示されれば、インストールは正常に終了しています。
画面が表示されない場合は、次のページを参照してください。

❏ [アクセス画面が表示されない](#)

15. 「会社名」と「お名前」を入力し、**次へ** をクリックし、サンプルデータを作成します。



ここで入力した会社名とユーザー(すでに登録されているユーザーを含む)、およびスケジュールや掲示板などの運用例がサンプルデータとして登録されます。

本運用の開始前に、Office 10の操作や機能を試したりするのに便利です。

ただし、サンプルデータにはメールサーバーが設定されていないため、メールの送受信はできません。

サンプルデータが不要の場合は、あとで削除できます。

❏ [サンプルデータの削除](#)

16. Office 10にサンプルユーザーでログインします。

サンプルユーザーには、パスワードが設定されていません。

空欄のままログインします。



17. 動作の確認や必要な設定をします。

詳細は、次のページを参照してください。

❏ [インストール直後にシステム管理者が行うこと](#)

Linuxの場合

次の場合を例に、Office 10をLinux環境にインストールする手順を説明します。
インストールにはLinuxコマンドを使用します。操作に不安がある場合は、Linuxサーバーの管理者に作業を依頼してください。

- Linux環境: Red Hat Enterprise Linux 5
- インストール識別子: cbag

1. インストールする環境を確認します。

項目	説明
ユーザーの権限	インストールする際に、次のユーザーでサーバーマシンにログインする必要があります。 • root権限を持つユーザー
サーバーマシンやネットワークの環境	お使いのサーバーマシンやネットワーク環境が動作環境と合っていることを確認します。 製品サイト: 動作環境
サーバーマシンの設定日時	サーバーマシンの設定日時が、正しいかどうかを確認します。 日時が正しく設定されていないと、正常に動作しない恐れがあります。
ドライブの空き容量	インストール先のドライブに、100MBの空き容量があることを確認します。
常駐アプリケーションやプロセス	サーバーマシンで、アプリケーションのプロセスが終了していることを確認します。 セキュリティやバックアップなどの常駐アプリケーションやプロセスが動いていると、影響を受けてしまう可能性があるため、停止した状態で実施することを推奨しています。

2. Office 10の対応Webサーバー「Apache 2.2.x/2.4.x」がインストールされていることを確認します。 Webサーバーは、お使いの環境に合わせて、お客様自身でインストールする必要があります。

3. 最新のインストーラーを入手します

[製品サイト: ダウンロード](#)

4. スーパーユーザーでログインします。

suコマンドを利用し、root権限でログインします。
“-”は必ず付けてください。

```
su -
```

5. サーバーマシンにダウンロードした「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」を任意のディレクトリに保存し、そのディレクトリに移動します。

例: /tmpにインストーラーを保存する場合

```
cp cbof-10.0.0-linux-k0.bin /tmp  
cd /tmp
```

6. インストーラー「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」をshコマンドで起動します。

```
sh cbof-10.0.0-linux-k0.bin
```

7. 日本語が表示されたら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

日本語が表示されない場合は、英語表示モードでインストールします。「N」を入力してからEnterキーを押します。

この日本語が正しく表示されている場合はYを入力してください。

If you cannot read the above Japanese text, type 'N'.

[Y] / [N] :

8. 表示されている試用許諾契約書は、EnterキーまたはSpaceキーを押して最後まで確認してください。

試用許諾契約書に同意しない場合は「N」を入力してからEnterキーを押し、インストールを中止します。

9. インストール識別子を確認し、Enterキーを押します。

通常はインストール識別子を変更する必要はありません。ただし、1つのサーバーマシンに複数のOffice製品をインストールする場合は、既存のOffice製品と異なるインストール識別子を設定する必要があります。

[インストール識別子とは](#)

===== インストール識別子の設定 =====

インストール識別子を設定してください。

インストール識別子は製品がインストールされるディレクトリの名前になります。

なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「cbag」が設定されます。

通常は変更する必要はありません。

Cybozu(R) Office 10へバージョンアップする場合

使用中の製品と同じインストール識別子を設定してください。

インストール識別子は、システム設定の「実行環境の診断」画面のDir欄で確認できます。

例: 旧製品の実行環境が、/var/www/cgi-bin/cbag/ の場合

インストール識別子は、「cbag」になります。

[cbag]:

10. CGIディレクトリを確認し、Enterキーを押します。

通常はCGIディレクトリを変更する必要はありません。

初期値に設定されているCGIディレクトリは、お使いのWebサーバーにより異なります。

[CGIディレクトリとは](#)

===== CGIディレクトリの設定 =====

CGIディレクトリを設定してください。

※CGIディレクトリは、製品の実行ファイルが保存されるディレクトリです。

なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「/usr/local/apache2/cgi-bin」が設定されます。

通常は変更する必要はありません。

Cybozu(R) Office 10へバージョンアップする場合

使用中の製品と同じCGIディレクトリを設定してください。

CGIディレクトリは、システム設定の「実行環境の診断」画面のDir欄で確認できます。

例: 旧製品の実行環境が、/usr/local/apache2/cgi-bin/cbag/ の場合

CGIディレクトリは、「/usr/local/apache2/cgi-bin」になります。

[/usr/local/apache2/cgi-bin]:

11. データディレクトリを確認し、Enterキーを押します。

通常はデータディレクトリを変更する必要はありません。
データディレクトリの初期値は、次のとおりです。

- /var/local/cybozu/office/(インストール識別子)

□ データディレクトリとは

===== データディレクトリの設定 =====

データディレクトリを設定してください。

※データディレクトリは、製品のデータファイルなどが保存されるディレクトリです。

なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「/var/local/cybozu/office/cbag」が設定されます。

[/var/local/cybozu/office/cbag]:

12. ドキュメントルートディレクトリを確認し、Enterキーを押します。

通常はドキュメントルートディレクトリを変更する必要はありません。
初期値に設定されているドキュメントルートディレクトリは、お使いのWebサーバーにより異なります。

□ ドキュメントルートディレクトリとは

===== ドキュメントルートディレクトリの設定 =====

ドキュメントルートディレクトリを設定してください。

※ドキュメントルートディレクトリは、製品の画像ファイルなどが保存されるディレクトリです。

なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「/usr/local/apache2/htdocs」が設定されます。

通常は変更する必要はありません。

Cybozu(R) Office 10へバージョンアップする場合

使用中の製品と同じドキュメントルートディレクトリを設定してください。

ドキュメントルートディレクトリは、システム設定の「実行環境の診断」画面のDocumentRoot欄で確認できます。

例: 旧製品の実行環境が、/var/www/htmlの場合

ドキュメントルートディレクトリは、「/var/www/html」になります。

[/usr/local/apache2/htdocs]:

13. Webサーバーの実行ユーザー名を確認し、Enterキーを押します。

通常は、Webサーバーの実行ユーザー名には「apache」を設定するため、何も入力せずEnterキーを押します。
Webサーバーの実行ユーザー名を変更する場合は、実行ユーザー名を入力しEnterキーを押します。

□ Webサーバーの実行ユーザーとは(Linux環境のみ)

===== Webサーバーの実行ユーザー名の設定 =====

Webサーバーの実行ユーザー名を設定してください。

なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「apache」が設定されます。

通常は変更する必要はありません。

[apache]:

14. 設定を確認し、問題がなければ「Y」を入力してEnterキーを押します。

設定を変更する場合は「N」を入力してEnterキーを押します。

===== インストールの設定の確認=====

インストールの設定を確認してください。

インストール識別子:	cbag
CGIディレクトリ:	/usr/local/apache2/cgi-bin
データディレクトリ:	/var/local/cybozu/office/cbag
ドキュメントルートディレクトリ:	/usr/local/apache2/htdocs
WEBサーバーの実行ユーザー:	apache
スケジューリングサービスの起動/停止ファイル:	/etc/rc.d/init.d/ofss_cbag
アンインストールの実行ファイル:	/var/local/cybozu/office/cbag/uninstall_cbag

この設定でインストールします。よろしいですか？

[Y](はい) / [N](いいえ) :

インストールが始まります。

15. インストールが完了したら、試用許諾契約書とREADMEの保存場所を確認します。

===== インストールの終了の確認=====

インストールが正常に終了しました。

使用する前にREADMEを読んでください。

試用許諾契約書とREADMEの保存先は次のとおりです。

試用許諾契約書:	/var/local/cybozu/office/cbag/LICENSE
README:	/var/local/cybozu/office/cbag/README

Web ブラウザーで次のURLにアクセスしてください。

http://(サーバーのIPアドレス、またはホスト名)/(CGIディレクトリ)/(インストール識別子)/ag.cgi

例) http://webserver.cybozu.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.cgi

例) http://10.10.203.55/cgi-bin/cbag/ag.cgi

16. Webブラウザを起動し、Office 10にアクセスします。

Office 10のログイン画面が表示されれば、インストールは正常に終了しています。

アクセスURLの例:

- /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag にインストールした場合
http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)/cgi-bin/cbag/ag.cgi?
- サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合
http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.cgi
- ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合
http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.cgi

アクセスURLは、お使いのWebブラウザのお気に入りやブックマークに追加しておくことを推奨します。
ユーザーにも、アクセスURLをお気に入りやブックマークに追加することを連絡してください。

Office 10の画面が表示されない場合は、次のページを参照してください。

[☐ アクセス画面が表示されない](#)

17. 「会社名」と「お名前」を入力し、次へをクリックし、サンプルデータを作成します。

ここで入力した会社名とユーザー（すでに登録されているユーザーを含む）、およびスケジュールや掲示板などの運用例がサンプルデータとして登録されます。

本運用の開始前に、Office 10の操作や機能を試したりするのに便利です。

ただし、サンプルデータにはメールサーバーが設定されていないため、メールの送受信はできません。

サンプルデータが不要の場合は、あとで削除できます。

[☐ サンプルデータの削除](#)

18. Office 10にサンプルユーザーでログインし、動作を確認します。

サンプルユーザーには、パスワードが設定されていません。

空欄のままログインします。

19. 動作の確認や必要な設定をします。

詳細は、次のページを参照してください。

[☐ インストール直後にシステム管理者が行うこと](#)

インストールで使う用語

Office 10のインストール操作で使う用語を紹介します。

インストール識別子とは

インストール識別子は、サイボウズ製品を識別するための文字列です。アクセスURLの一部に使用されます。初期値のままインストールすると、「cbag」がインストール識別子になります。

任意の文字列を指定する場合は、次の条件を確認してください。

- 使用できる文字: 「A-Z」「a-z」「0-9」「-」「_」「\$」「!」「+」
- 使用できない文字: 先頭または末尾の「.」
- 設定できる文字数: 最大20文字

サーバマシン内にすでにOffice製品がある場合は、既存と異なる識別子を、新しくインストールするOffice 10に指定する必要があります。

CGIディレクトリとは

CGIディレクトリは、CGIプログラムの実行が許可されている、Webサーバー上のディレクトリです。インストール時に、CGIディレクトリ配下に「cbag(インストール識別子)」ディレクトリが作成され、Office 10の実行ファイルが保存されます。

インストールディレクトリとは

インストールディレクトリは、「CGIディレクトリ+インストール識別子」を指します。インストールディレクトリのファイル構成は、次のページを参照してください。

☐ ファイル構成: [インストールディレクトリ](#)

ドキュメントルートディレクトリとは

ドキュメントルートディレクトリは、外部に公開するコンテンツを格納する、Webサーバー上のディレクトリです。ドキュメントルートディレクトリを変更すると、Office 10の画面に、正しく画像が表示されない場合があります。

ドキュメントルートディレクトリ配下には、インストーラーのバージョンに応じて、バージョン固有のディレクトリが作成されます。たとえばバージョン 10.4.xのインストーラーを使用すると、「cb1040」ディレクトリが作成されます。このバージョン固有のディレクトリに、画面表示に必要な画像ファイルなどの静的ファイルが保存されます。バージョン固有のディレクトリのファイル構成は、次のページを参照してください。

☐ ファイル構成: [ドキュメントルートディレクトリ](#)

データディレクトリとは

データディレクトリは、Office 10が動作するために必要なデータを保存するディレクトリです。
Office 10のインストーラーが作成します。
データディレクトリのファイル構成は、次のページを参照してください。

📁 ファイル構成: [データディレクトリ](#)

Webサーバーの実行ユーザーとは(Linux環境のみ)

Webサーバーの実行ユーザーは、Office 10の次のフォルダーの所有者です。

- インストールディレクトリ
- データディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

Webサーバーの実行ユーザー名を確認するコマンドは、次のとおりです。

【Web サーバープロセス名がhttpd の場合の例】

```
> ps aux | grep httpd
```

```
nobody 5235 0.0 1.9 540 576 ?? I 30Nov99 0:00.25 httpd
```

結果の最初に表示される項目が、Webサーバーの実行ユーザー名です。

上記の場合は「nobody」が、Webサーバーの実行ユーザー名です。

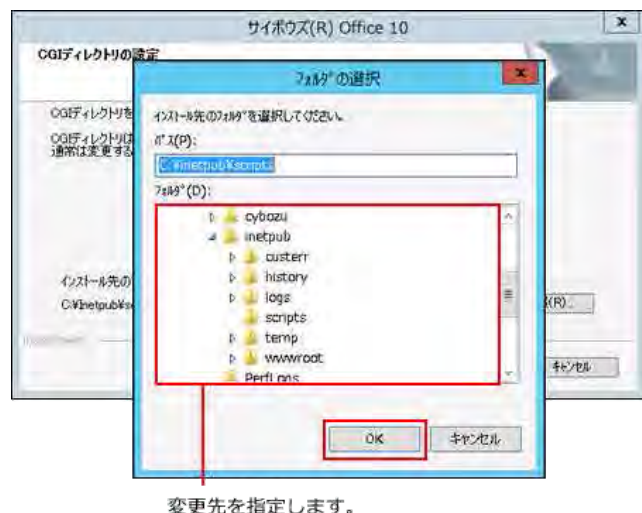
rootもユーザー名として表示されることがありますが、rootは実行ユーザー名として設定しないでください。

インストール時に困ったときは

Office 10のインストール操作で、困ったことを解決するヒントをまとめて紹介します。

インストール先のディレクトリを変更したい(Windows環境のみ)

CGIディレクトリ、データディレクトリ、またはドキュメントルートディレクトリを変更する場合は、各確認画面で [参照](#) をクリックして、変更先を指定します。



アクセス画面が表示されない

アクセス画面が表示されない場合は、Webブラウザを起動し、お使いの環境に応じた次のURLにアクセスします。

■ Windows環境のアクセスURLの例

Web サーバー	アクセスURL	例
IIS	http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)/scripts/(インストール識別子)/ag.exe?	● IPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/scripts/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/scripts/cbag/ag.exe?
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/cbag/ag.exe?	● IPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.exe?

■ Linux環境のアクセスURLの例

--	--	--

Web サーバー	アクセスURL	例
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス) /cgi-bin/cbag/ag.cgi?	IPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.cgi?
		ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.cgi?

アクセスURLは、お使いのWebブラウザーのお気に入りやブックマークに追加しておくことを推奨します。
ユーザーにも、アクセス URLをお気に入りやブックマークに追加することを連絡してください。

■ 上記の操作をしても画面が表示されない場合

上記のURLにアクセスしても、Office 10のログイン画面が表示されない場合は、次の項目を確認してください。

- アクセスURLに間違いがないこと
サーバーマシンのIPアドレス、サーバー名、ディレクトリ名、またはファイル名などが正しく入力されていることを確認します。
- CGIを実行できるディレクトリを指定していること
- 仮想ディレクトリが正しく設定されていること
[□ 仮想ディレクトリの作成方法](#)

サーバーの移行(移行元がOffice 10の場合)

移行元と移行先の製品が、ともにOffice 10である場合のサーバーマシンの移行手順を説明します。

Step1

移行前の注意事項を確認します。

☐ [移行の前に確認すること](#)

Step2

移行元での作業 移行元の環境で、Office 10が動作している次のディレクトリを確認します。

- インストールディレクトリ
- データディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

☐ [サーバー環境の確認](#)

Step3

移行元での作業 Step2で確認したデータディレクトリのファイル構成を確認します。

☐ [データディレクトリ](#)

Step4

移行元での作業 メンテナンス時間を設定します。

☐ [メンテナンス時間の設定](#)

Step5

移行元での作業 スケジューリングサービスを停止します。

☐ [スケジューリングサービスの停止](#)

Step6

移行元での作業 移行するデータをバックアップします。

バックアップするデータは、次のとおりです。

- (データディレクトリ)/cb5/data以下のすべてのデータ
- (データディレクトリ)/cb5/file以下のすべてのデータ
- (データディレクトリ)/cb5/log以下のすべてのデータ
- (データディレクトリ)/cb5/module以下のすべてのデータ

☐ [バックアップ](#)

Step7

移行先での作業 移行元と同じマイナーバージョンのOffice 10 を移行先のサーバーマシンにインストールします。

移行元と移行先でマイナーバージョンが異なる場合は移行できません。

マイナーバージョンアップとサーバー移行を同時に実施する場合は、サーバーの移行が完了してから、移行先で製品をバージョンアップします。

☐ [移行元と移行先の製品バージョンの確認](#)

Step8**移行先での作業** スケジューリングサービスを停止します。[☐ スケジューリングサービスの停止](#)**Step9****移行先での作業** 移行先の次のディレクトリをリネーム、または削除します。

リネームの例:

(データディレクトリ)/cb5/data → (データディレクトリ)/cb5/data_bak

(データディレクトリ)/cb5/file → (データディレクトリ)/cb5/file_bak

(データディレクトリ)/cb5/log → (データディレクトリ)/cb5/log_bak

(データディレクトリ)/cb5/module → (データディレクトリ)/cb5/module_bak

Step10**移行元での作業** ステップ6のバックアップデータをコピーします。**Step11****移行先での作業** Step10でコピーした移行元のバックアップデータを移行先に配置します。

(データディレクトリ)/cb5配下に配置します。

移行元のバックアップデータ「data」 → (データディレクトリ)/cb5/dataとして配置

移行元のバックアップデータ「file」 → (データディレクトリ)/cb5/fileとして配置

移行元のバックアップデータ「log」 → (データディレクトリ)/cb5/logとして配置

移行元のバックアップデータ「module」 → (データディレクトリ)/cb5/moduleとして配置



- 移行時にデータを上書きすると、移行先のアクセス権が変更されることがあります。詳細は次のページを確認してください。

[☐ 移行時にデータを上書きする場合](#)**Step12****移行先での作業** スケジューリングサービスを開始します。[☐ スケジューリングサービスの開始](#)**Step13****移行先での作業** メンテナンス時間を解除します。[☐ メンテナンス時間の解除: メンテナンス時間内の場合](#)**Step14****移行先での作業** Office 10の動作を確認します。

Webブラウザを起動してOffice 10にアクセスし、次のことを確認します。

- 正常に動作する
- 移行元のデータを、正常に閲覧や表示できる

Step15

移行先での作業 必要に応じて、移行先の製品をマイナーバージョンアップします。

☐ Windows環境: [お使いのOffice 10を最新版にする](#)

☐ Linux環境: [お使いのOffice 10を最新版にする](#)

マイナーバージョンアップする必要がある場合は、バージョンアップ作業は必要ありません。Step16に進みます。

Step16

移行元での作業 移行元のOffice 10をアンインストールします。

☐ [Windowsの場合](#)

☐ [Linuxの場合](#)

ドライブの移行(移行元がOffice 10の場合)

移行元と移行先の製品が、ともにOffice 10である場合のドライブの移行手順を説明します。



- 移行元のOffice 10のデータだけを異なるドライブに移行することはできません。データを移行するときは、移行先のドライブにOffice 10をインストールする必要があります。
- 移行先のドライブでホームディレクトリを変更する場合は、Webサーバー側でも、ホームディレクトリの設定を変更する必要があります。

Step1

移行前の注意事項を確認します。

☐ [移行の前に確認すること](#)

Step2

移行元での作業 移行元の環境で、Office 10が動作している次のディレクトリを確認します。

- インストールディレクトリ
- データディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

☐ [サーバー環境の確認](#)

Step3

移行元での作業 Step2で確認したデータディレクトリのファイル構成を確認します。

☐ [データディレクトリ](#)

Step4

移行元での作業 メンテナンス時間を設定します。

☐ [メンテナンス時間の設定](#)

Step5

移行元での作業 スケジューリングサービスを停止します。

☐ [スケジューリングサービスの停止](#)

Step6

移行元での作業 移行するデータをバックアップします。

バックアップするデータは、次のとおりです。

- (データディレクトリ)/cb5/data以下のすべてのデータ
- (データディレクトリ)/cb5/file以下のすべてのデータ
- (データディレクトリ)/cb5/log以下のすべてのデータ
- (データディレクトリ)/cb5/module以下のすべてのデータ

☐ [バックアップ](#)

Step7**移行元での作業** 移行元のOffice 10をアンインストールします。

移行元と移行先での、Office 10の二重運用を防ぐために、移行元のOffice 10をアンインストールします。

☐ [Windowsの場合](#)

☐ [Linuxの場合](#)

Step8**移行先での作業** 移行元と同じマイナーバージョンのOffice 10を移行先のドライブにインストールします。

移行元と移行先でマイナーバージョンが異なる場合は移行できません。

マイナーバージョンアップとドライブ移行を同時に実施する場合は、先に同じマイナーバージョンでドライブを移行したあと、移行先のドライブで製品をバージョンアップします。

☐ [移行元と移行先の製品バージョンの確認](#)

Step9**移行先での作業** 移行先のドライブに仮想ディレクトリを設定します。

☐ [仮想ディレクトリの作成方法](#)

Step10**移行先での作業** Office 10の動作を確認します。

Webブラウザを起動してOffice 10にアクセスし、正常に動作することを確認します。

Step11**移行先での作業** スケジューリングサービスを停止します。

☐ [スケジューリングサービスの停止](#)

Step12**移行先での作業** 移行先の次のディレクトリをリネーム、または削除します。

リネームの例:

(データディレクトリ)/cb5/data → (データディレクトリ)/cb5/data_bak

(データディレクトリ)/cb5/file → (データディレクトリ)/cb5/file_bak

(データディレクトリ)/cb5/log → (データディレクトリ)/cb5/log_bak

(データディレクトリ)/cb5/module → (データディレクトリ)/cb5/module_bak

Step13**移行元での作業** ステップ6のバックアップデータをコピーします。**Step14****移行先での作業** Step13でコピーした移行元のバックアップデータを移行先に配置します。

(データディレクトリ)/cb5配下に配置します。

移行元のバックアップデータ「data」 → (データディレクトリ)/cb5/dataとして配置

移行元のバックアップデータ「file」 → (データディレクトリ)/cb5/fileとして配置

移行元のバックアップデータ「log」 → (データディレクトリ)/cb5/logとして配置

移行元のバックアップデータ「module」 → (データディレクトリ)/cb5/moduleとして配置



- 移行時にデータを上書きすると、移行先のアクセス権が変更されることがあります。詳細は次のページを確認してください。

☐ [移行時にデータを上書きする場合](#)

Step15

移行先での作業 スケジューリングサービスを開始します。

☐ [スケジューリングサービスの開始](#)

Step16

移行先での作業 メンテナンス時間を解除します。

☐ メンテナンス時間の解除: [メンテナンス時間内の場合](#)

Step17

移行先での作業 必要に応じて、移行先の製品をマイナーバージョンアップします。

☐ Windows環境: [お使いのOffice 10を最新版にする](#)

☐ Linux環境: [お使いのOffice 10を最新版にする](#)

マイナーバージョンアップする必要がある場合は、バージョンアップ作業は必要ありません。Step18に進みます。

Step18

移行先での作業 Office 10の動作を確認します。

Webブラウザを起動してOffice 10にアクセスし、次のことを確認します。

- 正常に動作する
- 移行元のデータを、正常に閲覧や表示できる

Step19

移行元での作業 移行元のドライブで、Office 10をアンインストールします。

☐ [Windowsの場合](#)

☐ [Linux環境の場合](#)